

#### 4 3学年間を見通した指導計画の作成と内容の取扱い

授業時数については、教科の目標の実現を図るため、3学年間を通して、技術分野や家庭分野に偏ることなく授業時数を配当する。また、内容AからDは、全ての生徒に履修させる。

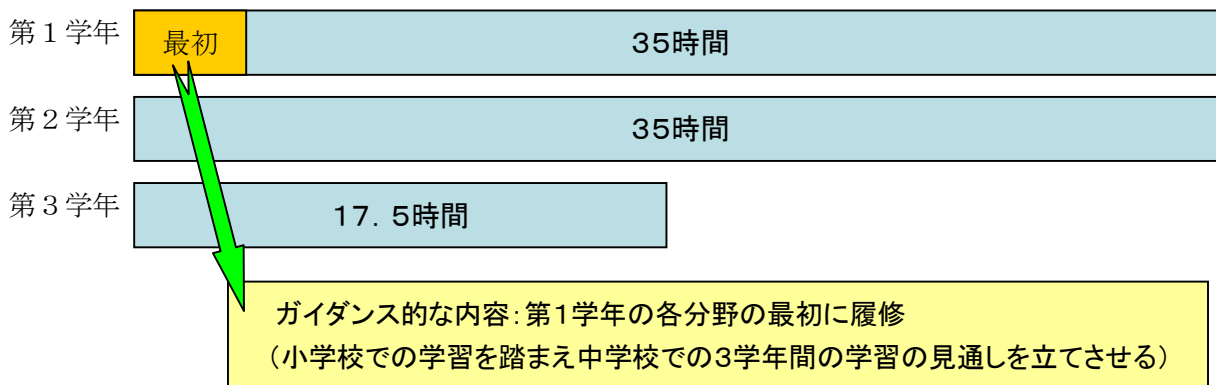
「A 材料と加工に関する技術」内容の(1)については、3学年間を見通しを立てさせるガイダンス的な内容として、第1学年の技術分野の最初に履修させる。

各項目に配当する授業時数と履修学年については、内容AからDの各項目に適切な授業時数を配当するとともに、3学年間を見通して履修学年や指導内容を適切に配列する。

以下に、指導計画作成に關しての原則的な考え方と作成の手順などを示した。

##### (1) 技術分野の授業時数

- ☆ 3年間の標準授業時数は合計で87.5時間である。
- ☆ 詳細(時数・履修学年・配列)は、各学校に任されている。  
(ガイダンス的な内容は下図を参照)
- ☆ 実態等を考慮し、全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成する。



##### (2) 3学年間を見通した指導計画の必要性と作成する際の留意点

- ・指導内容の精選
- ・3学年間を見通したバランスのよい計画  
→4つの内容を効果的に配置する。(付けたい力を洗い出し、系統付ける等)
- ・地域、学校及び生徒の実態等を踏まえたもの  
→地域にある素材を授業に生かす。  
→事前アンケート等で、生徒の関心や生活経験を探る。
- ・ガイダンス的な内容の設定  
→第1学年の技術分野の最初に技術・家庭科の意義を明確にするとともに、小学校での図画工作科等の学習を踏まえ、3学年間の学習の見通しを立てる。評価の観点は「生活や技術への関心・意欲・態度」とする。
- ・各項目及び各項目に示す事項  
→相互に有機的な関連を図り、総合的に展開する。  
→小学校・他教科等との関連を明確にし、系統的・発展的な指導を考える。
- ・道徳の時間などとの関連を考慮

- ・評価計画

- 目標と評価（評価方法含む）の整合性を図る。
- 生徒への定着状況を把握し、次の指導や支援に生かす。  
（完成した作品だけで評価するのではなく、過程での評価も適切に行う。）

### （3）内容の取扱いと指導における留意点

- ・実践的・体験的な学習活動及び問題解決的な学習

- 実習（活動）することが目的となってしまう、内容の定着が不十分とならぬように注意する。
- 基礎的・基本的な知識や技術の習得と密接に結びつけて計画を作成する。
- 教科目標に迫るための有効な手立てとして、言語活動の場を意図的に設定する。
- 生徒にとって魅力があり、「やってみたい」と思える題材を選定する。また活動の過程で、工夫・創造する能力が発揮され“自分らしさ”を表現できる題材選びをする。

- ・技術の評価・活用する能力と態度の育成

- その技術が、社会や生活の中で、どんな役割を果たしているのか、環境とどう関わっているのかなど、光と影を意識し、多面的・多角的な視点から自分の考えをつくり、技術を見る目を養う。
- 実生活や社会との関連及び将来へのつながりを意識した活動にする。